



● 巻頭エッセイ「学校 5 日制の下での土曜授業推進の一考察」..... 1	● 授業デザインスキルアップ演習報告・10 月勉強会案内..... 3
● 2013 年度「教員免許状更新講習 1・2」報告..... 2	● 授業の玉手箱「韓国の英語授業」を参観して..... 4
講習 1：「思考力・判断力・表現力」の育成をめざす指導..... 2	● 書籍紹介『私も「移動する子ども」だった』..... 4
講習 2：発音指導とリスニング指導のワークショップ・クリニック..... 3	● 編集後記・11 月・12 月勉強会案内..... 4

巻頭エッセイ

学校 5 日制の下での土曜授業推進の一考察

中垣 芳隆

2002 年に「ゆとり」をキーワードに学校、家庭、地域の三者が連携し、役割分担しながら社会全体で子どもを育てるという基本理念の下で完全学校週 5 日制が実施されて 10 年余りが経過した。この間周知のごとく PISA の学習到達度調査の結果等を受けた学力低下の問題が提起され、学習指導要領が改訂され授業時数や教育内容の充実が図られた。

このことに関わる 2008 年の中央教育審議会答申においては、改訂にいたった児童・生徒の抱える諸課題の記述と併せて、「地域と連携したり外部人材などを活用して、総合的な学習の時間の一環として課題解決型の学習や探求活動、体験活動などを行う場合には土曜日を活用することが考えられる」と述べられている。

有名大学への進学を旗印とする高等学校では、2002 年当時から土曜講座などの冠をかぶせ土曜日の活用を図っているが、義務教育諸学校の状況については、今年 4 月の毎日新聞に、「土曜授業 12 都道府県で今年度予定」の見出しと下記の記事が掲載されている。

文部科学省が公立学校の「週 6 日制」復活を検討する中、今年度、土曜授業を予定する公立小中学校がある自治体は 12 都道府県に上る。教える内容を増やした新学習指導要領の実施に伴い、授業時間の確保などが狙いと見られる。

実施する授業内容は、平日の通常授業とは異なり、外部講師を招いた授業や学力向上のための補充学習のような位置づけが目立つ。こうした時間は、新学習指導要領の実施に伴い、年間の授業時数を 70 ～ 35 時間増やしたことで平日に確保するのが困難になってきたことが背景。(下線部筆者)

また、大阪市教委の HP には、「大阪市では、各小・中学校が学校の特色や実態に応じて、土曜日等の休日を効果的に活用し、家庭や地域との連携のもと各学校での開かれた教育活動の充実を図ることができるようにするため、「土曜授業」を実施します。」とある。

こうした地方の動きを受け、本年 3 月に文部科学省において「土曜授業に関する検討チーム」が設けられ、各教育委員会からヒアリングを実施、本年秋を目途に一定の成果を出すことを目指すとして、先日、その「中間まとめ」が公表された。

その中では、土曜授業の実施に当たり留意すべきこととして、地域と連携した体験活動や、豊富な知識・経験を持つ社会人等の外部人材の協力を得た取り組みなど、土曜日に実施することのメリットをいかにしながら、道徳や総合的な学習の時間、特別活動などの授業を行うなどといった工夫が期待されるとある。

また、土曜授業の制度設計として、
①全国一律で土曜授業を制度化する場合（隔週等で実施する場合

も含む）と
②設置者の判断で土曜授業を実施する場合（ 〃 ）の、二通りが示されており、

設置者の判断で実施する場合の説明として

- ・ 施行規則に定める「特別の必要が或る場合」の基準が明確でないことが、各設置者に実施を躊躇させているとの指摘がある。
- ・ 施行規則改正し、設置者の主体的な判断で土曜日に授業を実施することが可能である旨を明確化することにより、土曜授業の実施を促進し、子ども達の学習活動の充実を図ることが考えられる。

このように、国・地方教育行政における土曜授業の推進に対する前傾姿勢が顕著となっている一方で、現実には授業を実施する教員、学校の負担に対する言及が、全国一律で制度化する場合に「教職員の勤務態勢についても、法令改正などを検討する必要」の一文のみしか見あたらないことに懸念を抱かざるを得ない。

振り返れば、学校週 5 日制も、もともとはアメリカの対日貿易赤字が拡大した 1980 年代に欧米諸国から日本人の労働時間の長さが非難され、教員の週休 2 日も政府の時短政策の一環として実施されたことも周知のことである。

しかしながら、民間の調査によれば、完全週 5 日制が実現した 2002 年以降、教員の平日の勤務時間は、小学校教員の退勤時刻は 1998 年から 2010 年にかけて 55 分、中学校教員のそれは 1 時間以上も在校時間が増え、平均の勤務時間は 12 時間を超えている。

また、学校を取り巻く環境が複雑、多忙となり、教職員の病欠休職や精神疾患が毎年増加し、ほとんどすべての教育委員会が教員のメンタルヘルスが児童生徒に影響を与えると懸念している。

こうした状況の下で、平日の業務は軽減されないままに、新たな教育ニーズが次々と土曜日に付加される可能性が高いのではないかと。もしそうだとしたら、学校現場はより疲弊するし、子ども達の負担も増えることが懸念される。

本年 4 月の中央教育審議会が答申した「教育振興基本計画」では、教育に対する公的支出の GDP 比が我が国においては 3.6% であるものを将来的には OECD の平均の 5.4% を参考に教育投資を増額する方向が明記された。教育は未来に対する投資でもある。子どもの多様な体験を保証し、保護者や地域住民を巻き込んだ充実した土曜日の取り組みを実現するためには、教員や教育活動を支援するコーディネーターなどの増員が求められる。単に制度を変更するだけでなく、そこに本腰を入れて投資を行えるのか、そのことが土曜授業の成否を左右すると考える。

特集

- 講習 1：「思考力・判断力・表現力」の育成をめざす指導
- 講習 2：発音指導とリスニング指導のワークショップ・クリニック

講習 1 8月6日(月)

担当：東條加寿子、中井弘一

■講座のねらい

新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す知識基盤社会においては、異なる文化との共存や国際協力の必要性という理想の追求もさることながら、アイデアなどの知識そのものや人材をめぐる国際競争の加速化が一層激しいものになっている。その対策としての規制緩和や制度改革が進む競争社会において、自己の能力を發揮し社会に貢献するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要であると文部科学省は我が国の教育の方向を打ち出している。

第一部「国際社会を読み解く英語力」では、グローバル化の進む国際社会で通用する「思考力・判断力」を養うためには、自文化の価値判断や思考回路から脱却した異文化理解の視点が必要であることを、時事英語素材を使って演習する。第二部においては、英語の授業で「思考力・判断力・表現力」を育成する指導の構成要素は何か、その key competencies とは何かを探りながら、critical thinking をはじめ様々な thinking skills や PBL などを用いた実際の教材展開例を考える。

受講者のコメント（受講者 26 名から一部紹介）

- ・久しぶりに学生に戻った気分で充実した一日を過ごすことができました。自分の頭の中ではっきりとしたイメージがないまま、こんなふうに教えたいと思っていたことを系統立てて教えていただき、スッキリしました。まだまだ学ぶことも多く、生徒達に伝えることも多いと実感しています。用意していただいた教材が盛りだくさんで、この夏休みにじっくり読み、勉強したいと思います。ありがとうございました
- ・講師の先生方の熱意が伝わり、「自分も頑張ろう」という気持ちになりました。有効なサイト、スピーチなども紹介していただきありがとうございました。
- ・英語力向上のためのスキルや実際の授業ノウハウといったことよりも、「今、育成すべき英語力は何なのか」ということをしっかり考えることが出来た講習でした。そういったアプローチの方が意外と具体的な授業での活用方法がイメージでき、私にとってはよい機会となりました。
- ・英語授業を通して、思考力、判断力、表現力を高めるということは素晴らしい発想だと思いました。これまでの英語を教える中で、一番大事なことが欠落していたのだと反省させられました。生徒にこの critical thinking の力をどのようにつけさせたいのかを様々な手法や実際の現場での取り組みを紹介していただき、本当に参考になりました。まずは自らの発想を転換し、新しい授業を展開しなくてはいけないと思いました。
- ・テキスト以外の投げ込み教材を活用することをこれまでではしていませんでした。本校では 2 年生よりディベートに取り組んでいますが、1 年生から中井先生がされていたように、即座に判断し、その根拠や理由をすぐに相手に伝える日々の訓練が大切だと思いました。日頃から意見を構築する機会を与えていきたいです。また、外国人がよく尋ねる質問に英語で解答を書かせるという活動も興味深く思いました。積み重ねることにより、対話の内容が深められると思います。是非実践させていただきたいです。時事教材を取り入れた授業にはずっと取り組んできました。英文の記事にも文化や価値観が見え、映像にも海外の文化があり、扱い方も楽しいです。生徒のレ

ベルに教材を作り替える苦労はありますが、今日の講義を聴いてまた、頑張ろうと思います。

- ・時事英語には興味があるので、その具体的な素材、また Wordle などの useful sites の紹介などとても有益でした。iPad を用いての説明も良かったと思います。「思考力を高める授業」は頭を柔らかくするための問題が、私の頭の固さを思い知らしめてくれました。きっと生徒の方がもっと簡単にわかるのですね。先生の熱心な講習ありがとうございました。ただ、プリントの字が細かくて senior eye の私には復習するのがつらいです。
- ・英語授業のスタンスを再構築する必要性を痛感させられる内容でした。どちらも豊富な資料で咀嚼するのに時間がかかりそうですが、きちんと丁寧に読んで自分のものになりたいと思います。ありがとうございました。
- ・さすが英語教育の素晴らしい大学だと受講して再認識しました。私も現役の学生時代に学びたかったと思いました。
- ・あっという間に時間が過ぎ、学生時代を思い出しました。「こんな授業がしたい、こういう話を伝えたい」学生時代に思い描いていた自分の理想像をまた思い出すことができました。とても貴重な情報をありがとうございました。
- ・聴講で参加しました。たくさんの資料をありがとうございました。友達が努めている群馬国際アカデミーという学校で、“Critical Thinking” を身につけさせることを大切にしていると聞いて、どうやって指導すればいいのかと、思っていたところでした。とてもわかりやすく説明していただけた。自分が明日から実践するにはかなり難しいことで、教材研究や授業中に意識を変えていかなければいけません。でも、一つでも発問の仕方を変えていけるようにしていこうと思いました。また、東條先生の講習では、はじめて iPad に触れました。とても有効なものなので、使いこなして良い教材を生徒達に与えていけるようにしようと思いました。ありがとうございました。
- ・今日一日だけでは、自分の授業の仕方が変化させられるような感じがしないので、連続して受講したいと思いました。「英語力」の前に話すための知識や自分なりの意見・感想を持つことが重要だと思うので生徒達の生活習慣や家庭環境がとても大事だと思います。日頃、自分たちが生活している社会にどれほど興味を持ち、学ぶ意欲を持っているか、持つことができるか、LINE やバーチャルの世界でしかコミュニケーションをとれない、そしてすぐにトラブルになる現状にととても不安になりました。英語教員として、英語を使って生きる力、思考力判断力、表現力を養うため、少しでも自分の周りのいろいろな物事に興味を持ち、異なる価値観や文化かに触れ、他を除外しない理解しようとする力をつけさせたいと思います。本日はありがとうございました。

講習 2 8月7日(火)

担当：夫 明美、東條加寿子、中井弘一

■講座のねらい

英語の音声に焦点を当てた体験型ワークショップ・クリニックを行う。

午前の部は、英語の発音を理解し発音指導の素地を教師自身が形成するために、音素の生成過程や音のつながりの仕組みを理解し、教室で使用されているテキストを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行う。また、発音指導のヒントについて考える。

午後の「英語リスニングのクリニック (1)」では、次元を広げて、文レベルの音のつながりを取り扱う。リスニング (音声情報) とリーディング (文字情報) を関連付けたスラッシュリスニングの指導法について考える。

午後の「英語リスニングのクリニック (2)」では、捉えるまでは「存在しない」、聞こえても「すぐ消える」音声の不安定性に対応するため、音の判定と識別の遅れをなくし、その捉えた音を意味化する処理に生じる遅れも小さくするリスニングのストラテジーとしての指導ステップを考える。



受講者のコメント（受講者36名から一部紹介）

- ・今日の講習も素晴らしくあっという間に時間が過ぎました。どの先生も英語が本当に好きなんだというのが伝わってきました。私も生徒にそんなふう感じてもらえるよう日々成長していけるよう頑張りたいです。
- ・夫先生…わかりやすい指導法「鳥の鳴き声」など具体的に教えていただきわかりやすかったです。また、大学卒業後では本当に久しぶりの音声学で新鮮で楽しかったです。また受けてみたいです。東條先生…毎回わかりやすく、簡潔にまとめられているところがよかったです。自分自身、先生の講習を受け、情報処理力、思考力の大切さがわかります。また受けてみたいです。中井先生…本日の講習において、リスニング力症状診断は生徒だけでなく、私自身においても、役立つ内容であったと思います。反省会がなかったのが残念ですが、次回もっと議論したいです。
- ・3月の講習に続き二度目の受講です。本日の講義では（特に発音、音声について）大学でもこんなに詳しく習っただろうかと思うほど、丁寧に教えてくださり、本当に受講してよかったと思いました。生徒にもわかりやすいイメージで“音”の出し方を教えていただいたので、二学期から活用させていただきます。東條先生、中井先生の講義では「リスニングとは何か？」という根本的なところから考え直し、生徒たちに何から指導していけばよいのかというヒントを与えていただきました。どうもありがとうございました。
- ・発音練習は久しぶりに新鮮で楽しかったです。中には頭の固いひねくれた子どももいるので、その子たちには、音の出る構造や舌の位置といったアプローチが有効かと思いました。リスニングは、子どもにとって出来たらすごく嬉しいもの、達成感があるものなので、発音・音読練習をセットで前向きに取り組ませたいです。二日間ありがとうございました。大変勉強になりました。
- ・今まで発音についてきちんと学んだことがなかったので、非常にありがたき拝聴しました。とてもわかりやすく、実際自らも発音するので理解しやすかったです。また、午後の授業では、シャドーイングの練習を教えてもらい実用的な授業でした。ありがとうございました。
- ・発音の指導で、自分なりの工夫をしてきたつもりではあったが、今日、受講して発音の仕方、教え方など基礎から学習し直せたことが、一番の自分の収穫です。[æ][ʌ][a]の発音の違いやどのように声かけをすれば良いかが、よくわかりました。発音を指導する際に今ひとつ、自信のないところが今までありましたが、今日の研修でよくわかりました。これから発音を含めて大切さを生徒に伝えていきたいです。この講座は、ずっと受けたいと思っていたのですが、今日やっと念願の講習を受けることができ、内容もとても満足のできるもので、夫先生、東條先生、中井先生には本当に感謝です。
- ・発音は、意識して勉強しないと向上しないものだ改めて思い知らされました。残り少ない教師生活ですが、あらためて自分を鍛え直したいと思います。リスニングも自分自身を生徒達の力をあきらめてはいけないうのだと実感しました。手を変え、品を変え、生徒達にあきらめさせない授業を考えたいと思います。ありがとうございました。
- ・非常に参考になりました。生徒が発音記号さえ読めないのを知りつつも、音声指導に割く時間が無いと言いつつ日々…。語学の教員として大きなジレンマを抱える日々ですが、この状況を改善するために少しずつですが、前向きに努力していこうと強く感じました。本日は本当にありがとうございました。
- ・授業で活かすというよりは自分自身のための学びだったように思います。そしてもっと英語を勉強しなさい！と貴学の先生方から背中を押されたようで、“頑張ろう”との思いを新たにしました。もっと日数をかけて学生に戻り通いたかったです。ありがとうございました。一生、英語を学んでいきたいと思います。Live and Learn.
- ・とても勉強になりました。今日、昨日の両日を通して学んだことをもとに今後のteaching planを見直し、新しく改革していこうと思えます。先生方、ありがとうございました。



大阪女学院大学授業デザインスキルアップ演習・現職教員支援講習
2012年8月8日(木) 9:30-16:40
“生き生きとした英語表現活動”

午前：“日英感覚の違いから起こる表現の違い”
午後：“英語表現の味わい・創作活動”

参加者：本学4年生：1名 現職教員：30名

担当：中井弘一

参加教員コメント（一部紹介）

- ・自分が学生時代の頃の英語授業、そして今自分が行っている授業も含めて英作文はすべて“やらせ”の英作文でした。心に迫るものを真剣に英作文する、この体験を生徒にさせたいと思います。教師が見て面白くないものは間違いなく生徒も面白くないと感じると思います。今日は本当にありがとうございました。
- ・大阪女学院中学校から参りました。偶然、圓岡先生よりお誘いいただいたのをきっかけに参加させていただきました。全く事前に情報が入っていなかったのが残念ですが、今回伺わせていただいて大変感謝しております。今後は是非お知らせいただきたいです。ご準備に当たられた中井先生、スタッフの方、暑い中どうもありがとうございました。
- ・まず何よりも中井先生の情熱に感動しました。本講習だけでは収まりきれない数々のアイデアをお持ちで、日々の授業に悩んでいる自分としては、まねしたいものばかりでした。生徒が楽しいと思える教材づくりという原点を思い出させていただきました。本当にありがとうございました。
- ・目の前のやらなければならないことに追われすぎて、授業内容についてじっくり考えるという余裕が普段ありませんでした。「やらなければならない」ことは本当に「やらなければならない」のかをもう一度考え直す良いきっかけになりました。こういった長期休暇以外にも教育内容を考え直すきっかけが必要だと思いました。今度は教科書コミュニケーション英語Iの指導法や長文理解の指導法について教えていただきたいです。
- ・「英語表現は音から入る」そして楽しむ。非常に共感できました。私自身も音声から入るのがとても大切だと思っています。「耳」⇄音声、そして文字が自然な学習のプロセスだと信じています。毎回のパワー・トーク、パワー溢れるパワーポイント、もう頭がパンクしてしまいそうなくらいの量をたくさんいただきました。Input, Interactそして心に訴えてくる内容が多く、しっかり復習して、生徒たちに伝えたいですね。頑張ります！相当な準備だったと思います。本当にお疲れ様です。そしてありがとうございました。



*** * * 第25回勉強会「英語の教え方教室」 * * ***

2013(平成25年)10月19日(土) 14:00~17:00
「教職フィールドワーク課題研究発表」

将来の英語科教員として英語授業展開に対し幅広い視野を持たせるため、今年も学生6名を連れて英国へ教職フィールドワークに出かけた。現地の中学校の授業を観察したり、中学生相手にプレゼンテーションを行ったりした。博物館見学や街角観察を含め、現地の素材を使って教材を作成するなどの課題を与えている。10月の勉強会では参加学生による課題発表等を行う。



授業の玉手箱

書籍紹介

「韓国の英語授業」を参観して

東條 加寿子

9月8日から6日間、教職課程『教職フィールドワーク（韓国）』のプログラムで学生とともにソウルを訪れ、小学校から大学までの英語の授業を参観した。訪問した学校の状況で韓国の英語授業を一般化することはできないが、きわめて印象的な点がいくつかあった。

まず、小学校から、英単語の品詞をしっかりと教えていることである。韓国では小学校3年から英語が教科として教えられているが、私立学校では小学校1年（一部幼稚園）から英語が本格的に教えられている。（英語を教える幼稚園は教育熱心な保護者に大人気であることは想像に難くない。）参観した私立小学校3年生の授業は生徒12人程度の少人数クラス、ネイティブ教員によるオールイングリッシュのクラスである。ここでは、品詞の違いについて教え、名詞、形容詞や動詞の語彙を生徒から次々に引き出していた。タイマーで1分間をセットされ、生徒は知っている形容詞を順にどんどん発言していく。時間が経過するとプロジェクトで写し出されたスクリーン上でTime-bombが爆発する。名詞、形容詞、動詞の役割をしっかりと定義し、一つの文には必ず一つの動詞がなければならぬと教える。同じく小学校3年生のクラスでは、前置詞が扱われており、スクリーンには次のような穴埋め問題が示されていた。なかなかの難度である。

He walked slowly ___ the art table.

These shapes hang high ___ the floor. (選択肢:above, toward 他2)

一方、高校のリーディングのクラスでは、デジタルボードにテキストが映され、教師はスクリーンをタップすることで音声を出したり、次ページに進んだりすることができる。生徒たちは、まず音声を聞きながら文にスラッシュをいれ、次に教師が文法や語彙を説明しながら読み進めていく。韓国語を介した英語の授業で、日本の従来の授業と類似しているが、相違点は、文を順通りに読む進捗が速いこと。教師の問いかけに対して、生徒たちはコーラスで（声を合わせて）答えながらポイントをどんどん書き込んでいく。教師の問いかけは単語の意味や、文構造に関するもので、例えば allow がでてくると、“allow（教師）”“allow someone to do（生徒群）”、“permit（教師）”“permit someone to do（生徒群）”“request（教師）”“request someone to do（生徒群）”のように、同義語や類義語について次々と口頭で確認が行われる。授業テンポが速い印象は、電子黒板利用で情報が瞬時に示されること、指名して一人に答えさせる方式ではないため沈黙の時間がないことから感じとられるのだろう。教師の質問にクラス全体が即座に答えながら授業が進められる形態は、別の高校で参観した時にも見られたので、韓国の学校教育を通して規律化している形態なのだろう。

高校視察では、一つ面白いものを発見した。各教室の後ろに、高さが1メートルほどの高い机が置いてあるのだ。尋ねると、授業中、眠くなった生徒は自主的にテキストをもってこの机に移動し、立って授業を受けるというのだ。確かに、立ったままで寝るのは至難の業、自ずと睡魔は去っていく。

いずれにせよ、日本にはない授業の“仕掛け”はなかなか興味深いものであった。授業参観を許可してくださった先生方、その生徒たちには心から感謝である。

『私も「移動する子ども」だった』

川上郁雄（編著）くろしお出版 2010年 1,470円 224ページ

総務省の発表によると、2013年3月末時点での住民基本台帳における居住外国人は198万人であり、東京都・愛知県・大阪府などにおいては総人口における割合がいずれも2%を超えている。ここに含まれるのは、日本における滞在が3カ月をこえる外国人、特別永住者である（朝日新聞 2013.8.29 朝刊）。



経済のグローバル化にともない、ヒト・モノ・カネの行き来が量においてもスピードにおいても加速度を増す今日、特に本稿に最も関わるの深い「ヒト」の移動は、留学・就労・国際結婚の三要素において顕著である。これにともない、国境を越えて、必ずしも自分自身の国籍に関係なく「複数の言語環境を移動する子どもたち」の数も増えている。彼らの特徴は、本書の表現を借りると、以下の三点にまとめられる。

1. 親や子ども自身が、国境を越えて「移動」している
2. 二つ以上の異なる言語に触れながら、つまり、言語の間を「移動」しながら成長している
3. 外国語教育や母語教育などのカテゴリーの間を「移動」する

このような子どもたちは、社会的には「差別」や「いじめ」にあうことや、学業的には「成績不振」に苦しむこともある。何よりも、自己のアイデンティティをどのように捉えるか、形成するかという点で壁にぶつかるものも少なくない。本書ではその点にフォーカスして「自分の中にある多様な背景や複数の言語を一人の人間としてどのように受け止め、それを人間の生き方にどう生かしていくかというテーマ」（p.9）に、各分野の著名人へのインタビューを通して迫る。インタビューを書き起こすスタイルをとり、口語スタイルや繰り返しも含む、できるだけ話者からのオリジナル発話を記録している。このことから、読者は各人の What they speak という側面だけでなく HOW they speak という個性をも雄弁に語る側面についても知ることができる。

（夫 明美）



編集後記 | 第26・27回勉強会案内

2020年の東京オリンピック開催が決まった。佐藤さんの招致スピーチは心を打った。.... What we have seen is the impact of the Olympic Values as never before in Japan. And what the country has witnessed is that those precious Values... Excellence, Friendship and Respect ... can be so much more than just words. 東北の人々にも元気を送りたい。言葉以上のことを届けられる教員でありたい。

*** 第26回勉強会「英語の教え方教室」 ***

2013(平成25)年11月16日(土) 14:00~7:00

「『英語の授業は英語で』を考える」

滋賀県立水口高等学校の吉野欽哉先生からの英語で行う授業の実践報告を下に、目の前にいる生徒にどう対応していくべきかを考えたい。全英連の日程と重なったが、熱気溢れる話し合いを皆さんとしよう。

*** 第27回勉強会「英語の教え方教室」 ***

2013(平成25)年12月7日(土) 14:00~7:00

「新課程「英語表現I」の授業をどう教えるか」

和歌山県立那賀高等学校の加藤統久先生にコミュニケーションの場を設定しその場面に応じた多くの英語表現活動を取り入れた授業の工夫を話して頂く。



大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号
Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojic/edu/ttc>
e-mail: ttc@wilmina.ac.jp